

八月一日の朝、家族に行ってきますを言った所から、私の旅は始まった。研修会で仲良くなった仲間たちと一緒に、期待やワクワク、そしてほんの少しの不安を胸に、私たちは日本を飛び出した。

アメリカに着いて最初に気付いたのは、空が広く青いということだ。日本のような高い湿度ではなく、乾燥しているから青くなるらしい。だが私には、理屈ではなく、この土地が私たちを歓迎してくれているように思えた。

初日に訪れたのはデンバーという場所だ。コロラドスプリングスよりロッキー山脈からは離れているが、富士山の五合目の標高と同じくらいらしい。山々に囲まれた風景に慣れ親しんだ私に、土地の広大さとどこまでも広がる青い空はアメリカの壮大さを実感させた。

二日目にはコロラドスプリングスに到着し、ホストファミリーと初対面した。緊張している私と友人を、ホストファミリーは暖かく優しく迎えてくれた。家に着いてからも「遠慮しないで」「気を遣わなくて良いんだよ」「リラックスしてね」など、優しい言葉をかけてくれた。家にはハミングバード（ハチドリ）が来るテラスがあった。庭にも様々な木があり、自然豊かな場所だった。とても綺麗だと思った。コロラドスプリングスの人々は、山をただの山としてではなく、一つ一つの木や川、そこにいる動物たち全てを愛し、尊重し、尊敬していた。自然を人間と対等な生命として位置付けているように思えた。

私たちが富士山を愛する気持ち同様に、またはそれ以上に彼らの自然を愛する気持ちは強いように感じられた。私もこの土地の雄大な自然を好きになった。

私が好きになったのは自然だけではない。人も好きになった。出会った人はどんな人もみんな優しくかった。ゆっくり話してくれて、挨拶すれば笑顔で返してくれる。店員さんも、感謝を伝えればアメリカらしく「良い一日を」と返してくれた。そういう他愛もない挨拶一つ一つが嬉しかった。

話に聞いていたとおり、富士吉田とコロラドスプリングスは確かに似ているところがあった。でも、少しずつ違っていて、それぞれに良いところがあると感じた。

私は今回の経験を通して、行ったことのない場所でも、会ったことのない人でも、偏見を持たずに関わってみることが大事だということを知った。これまでの環境や人間関係の中で育まれた価値観を唯一のものとし、知らない文化や世界に触れてみることで、自分自身の視野を広げ、多様な価値観を理解することにより、人間としてもっと成長できるのではないかと思った。

最後に、この派遣事業でお世話になった方々、私たちを送り出してくださった富士吉田市の皆様、また応援してくれた先生方、大切な友人たちと家族に心より感謝申し上げ、報告に代えさせていただきます。